

コロナ禍で空気清浄機に活況

小中学校からの問い合わせも

各社新製品の開発や増産広がる

日立造船

ACSTERIA(アクステリア)

イノウエ塗料産業

くりんクリンシリーズ

エアロシールド

AERO SHIELD(エアロシールド)

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、災害時の避難所となる小中高等学校の体育館や、大学などの大講堂にも対応できる大型空気清浄機が注目を集めている。

学校からの問い合わせも多く、メーカーでは新製品の開発や増産の動きが広がっている。

プラントメーカーの日立造船（本社・大阪市）は、紫外線で空気中のウイルスを不活化する空気清浄機「ACSTERIA（アクステリア）」を開発した。食品や医薬品の製造現場で使われている殺菌用の技術を応用

し、深紫外線 LED で室内に浮遊するウイルスを除菌する。

ハイグレードタイプは最大で床面積 250㎡（約 130 畳）の空間を除菌することができる。さらに最大風量において床面積 100㎡の空間を約 50 分で無菌状態にできる能力を持つ。

また、大日本塗料の子会社であるイノウエ塗料産業（本社・福岡市）は紫外線ランプを使ってウイルスや細菌を除去する装置「くりんクリンシリーズ」を展開している。抗ウイルス作用のある光触媒を含む塗料とセットでの導入を呼び掛けている。

昨年 11 月の受注開始から今年 3 月までの販売台数は約 6000 台に上る。同社によれば、小中学校からの問い合わせが特に多いという。今年度は 3 万台の受注を目指す。

エアコンメーカーの富士通ゼネラルのグループ企業であるエアロシールド（本社・大分県大分市）は、「AERO SHIELD（エアロシールド）」を商品化。特殊なルーバー（仕切り板）構造による紫外線の水平照射で天井付近に紫外線ゾーン形成し、室内に浮遊する菌やウイルスを減少させる。医療機関をはじめとした様々な施設において、実証試験を行い、浮遊菌減少の結果を得ているとのことだ。

CDC が紫外線照射を推奨

米疾病対策センター（CDC）の報告では、空気感染するウイルスの感染予防に十分な換気回数は 1 時間に 6 回以上、可能であれば 12 回以上必要であると指摘している。

デルタ株は水痘と同等の感染力を持っていると言われている。だが、今後、秋から冬になり気温が低下すれば CDC が推奨するような換気回数は難しい状況となる。

CDC では、十分に換気ができない場合は、室内上部に紫外線を水平に照射し、空気中のウイルスや菌を減らせる方法を推奨している。

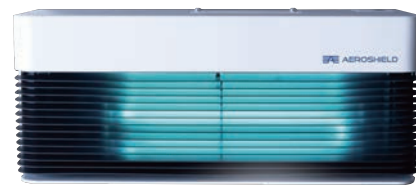
こうした中、今後、学校施設などの広い空間で、各社が開発した紫外線を使用した空気清浄機の導入がさらに広がりそうだ。



日立造船の「ACSTERIA」



イノウエ塗料産業の「くりんクリン」スタンドタイプ



エアロシールドの「AERO SHIELD」